

カラスザンショウ

ミカン科

暖地の沿海地や山地に生える雌雄異株の落葉高木。裸地ができるとすぐに入り込む先駆植物の一つ。

晩秋から冬にかけて紅紫色の果実が熟す。自然教育園では12月末から1月上旬頃に果実が房ごと落ちて観察できるようになる。



種子



地面に落ちた果実

一見小さく地味な姿だが、近づくくと独特な甘い香りがする。

果実は直径約5mmほどの球形。完全に熟すと乾燥した果皮が裂開し、直径3、4mmの黒い種子がこぼれ落ちる。

葉が全て落ちる頃になると、様々な鳥が集まってくる。

園内ではメジロや時々外から飛来するホンセイインコなどが食べていることが多い。



実を食べるメジロ(左)とホンセイインコ(右)